

第4回農林水産統計の広報・公表及び利活用の改善に関するアドバイザーグループ懇談会議事概要

1 日 時：平成17年7月5日（月）10:00～14:00

2 場 所：農林水産省統計部第1会議室

3 出席者：委員 安倍澄子、古賀雅隆、野村一正、平野芳朗、  
藤井喜継、細谷章、吉田泰治  
有識者 合瀬宏毅  
大臣官房統計部 統計部長、統計企画課長、システム管理室長 他

4 議 事：

- (1) 農林水産統計情報総合データベースの改善について
- (2) 農林水産統計第1報（速報）の改善について
- (3) 農林水産統計の新たな提供手法について
- (4) 農林水産統計における広報・公表の改善の具体化について
- (5) その他

5 議事概要

事務局から農林水産統計情報総合データベース及び農林水産統計第1報（速報）の改善、農林水産統計の新たな提供手法、農林水産統計における広報・公表の改善の具体化について説明し、委員等から意見を求めた。

(1) 農林水産統計情報総合データベースの改善について

事務局が提示した第3回懇談会の農林水産統計情報総合データベースの現状と改善の方向の案及び諸外国の各統計機関におけるホームページ、データベースサービスの現状に対し、

- キーワード検索が弱いと感じる。他のデータベースでは、トップページからキーワードで検索できるようになっているし、外国の資料を見ても、どこのページからも検索できるようになっている。トップページあるいは全ページに検索用の窓を付けるぐらいの必要があるのではないか。

- 例えば米で一人当たり消費量と入力して検索しても、「該当するデータがありません」とでる。もう少し一般的な用語でも引けるようなそういう検索システムにしないといけないのではないか。
- 誘導の仕方に関わり問題がある。例えば、リンクのボタンとその説明の関連付けが分かりにくいことや、いきなり別の画面が立ち上がってしまったり、PDFファイルが立ち上がるがその説明がないなど、使いにくい作りとなっている。また、ページによってはパンくずリストが途中で止まってしまい、どこにあるかわからないという問題点がある。タイトルタグを見ると全て統計表検索となっていて、検索サイトを使って情報を探しに来る方々がたどり着けるような対策がとられていない。
- 企業のサイトでいうIR（投資家関連（Investor Relations））サイトに当たるものが、統計データベースなのかなという気がした。企業のIRサイトは証券アナリスト、機関投資家、個人投資家それぞれフェーズが違う方にホームページを使ってワンストップで情報が提供でき、出向かなくても欲しい情報が全て揃うということが必要であるが、そういう視点でデータベースを作ればプロでもアマでも使いやすいものとなるのではないか。
- プロでも十分使えるようなデータベースになっていくと、果たして無料でいいのかということも気になる。
- EUの場合には、先物市場があって商品として取り引きされているというニーズがあると思うが、日本の場合には、そういうニーズがそれほどないのではないか。その辺は少し気を付けてヨーロッパのものをそのまま用いるのではなく、いろいろな状況を加味した上で考えるべきである。

等の意見が出された。

座長からは、これらの意見を踏まえ事務局で取りまとめるよう発言があり、これを受け事務局は、取りまとめ資料の中に反映させることとした。

## (2) 農林水産統計第1報（速報）の改善について

事務局が提示した農林水産統計第1報（速報）の改善（案）に対し、

- 「農林水産省」の統計調査であることを明確化することで「農林水産統計」が大きく目立っているが、基本的には内容を表すものを一番大きくすることが重要である。
- 統計の一番最初のところで、エクセルシートのページに直行できるようにしたことは非常に使いやすいと思うが、周辺情報も見たいというときのために、エクセルシートのページから他にいけるようになっているとよい。または、エクセルシート

の前のページに持って行き、周辺情報への誘導がうまくできるようにした方がよい。

- ホームページ上に載せる場合の統計表の文字は、ゴシック系のものにした方が見やすくなる。
- 今回の改善で変化の要因となった事情を記載されることは非常にありがたいが、役所が要因を言い切っているのかと迷っているうちにスピード性、迅速性が犠牲にならないかという不安がある。迅速性と中身の親切さの兼ね合いが非常に難しいところで、その辺に気をつけて頂きたい。
- 今は無理だと思うが、例えば、西洋なし、かき、くりというところで、なぜ西洋なしだけ同じ台風の影響でも減少したのかという次の疑問が出てくる。それを、速報の解説を見れば、ある程度納得がいくのか、ということが次に出てくると思うが、その辺がどうなのか気になる。

等の意見が出された。

事務局からは、担当者の分析能力も関係してくるが、日頃から訓練しながら、やれるところからやっていくということで対応していきたい。また、更なる分析については、きちんとした形で検討し、年報（確報）に反映させて頂きたい。との回答をし、了解された。

### (3) 農林水産統計の新たな提供手法について

事務局が提示した農林水産統計の新たな提供手法の案に対し、

#### ①「コンパクト統計」の発刊

- 誰向けの情報なのかということで、情報を精査して送る中身は考えなければいけない。そこには速報性だとか詳細性だとかいろんな視点があるので、そのところをよく考えて、あまり過度な負担にならないような形で、うまく今の情報を活用して見やすく提供するという視点が大事である。

#### ②「画像（写真）情報」ページの開設

- 被害状況を誰にどんな形で何のために見せるのかということの整理が必要と考えるが、よく分からないが、情報をビジュアルに見せるということは非常にいいことだと思う。
- 対象によって何を出すかにもよるが、携帯で写真を撮って送ってもらうという受け皿を作っておいて、それを掲載していくということを考えていくと速報性がもっとでてくるのではないか。

#### ③「グラフと絵で見る食料・農業」の子ども向け

- 例えばある企業のホームページにもこのようなページがあって、アニメーション

とかゲームとかがいっぱい入っており、子どもがすごくおもしろいという。子どもの場合には、そのあたりの楽しめる要素というのがないと使ってもらえない。

- 子どもの学習内容も考えて作っていくことが重要で、総合学習でサイトを見るとするのはどういう使い方をするのかということについていろいろな事例を学校などに聞いてみてはどうか。
- 「わがマチわがムラ」もそうだが、印刷しようと思ってもきれいに印刷ができない。子どもの宿題などに利用しようとする、どうしても家で印刷して持って行くということとなるので、ぜひ印刷しやすいように作っていただきたい。
- 漢字のレベルにも気をつけるべきで、実際に子どもに使わせて使い勝手を調べることも必要である。

#### ④「グラフと絵で見る食料・農業」の一般向け

- 食に興味を持つものを誘導するというのであれば、例示されている生産者の「経営耕地規模別農家数」というのはどうなのかという気がする。
- まず一般というのが誰なのかということになるが、ある程度の関係者はどんな統計が何時でるか大体知っている。それ以外の人に、例えばこのお米の情報を見てもらおうとした時、生産や流通・消費くらいまではいいだろうが、地産地消、伝統食まではどうかなと思う。それから生産構造と農家数は、ほとんど興味がないのではないか。あとは価格が欲しい。これらを、統計部の統計データだけではなく他のものも含めて、このページで完結するように作っておくと段々なじんでくるのではないか。生産構造とか土地とかは、次の段階として、もう少し慣れてから別のところへ作成していけばいいのではないか。
- 一般の人向けのデータに絞り込むということが必要である。土地、労働力、生産構造は、一般よりもちょっとプロの人向けのデータである。
- 女性の視点としては、お米を使った伝統食には関心がある。そういう情報提供をしていくことで、お米消費の拡大にも結び付くこととなるのではないか。
- どういう人達がどういうふうに見ているのかということ、もう少し仕分けをきちんとしていかないと的はずれな情報提供をすることとなる。

#### ⑤「農林水産統計メールマガジン」の発刊

- メールマガジンを送ってくる時のタイトルがいつも同じだと開く気がしない。タイトルを短くして内容を少し入れてもらおうと開こうかなとかいう気になるし、重要な情報なのかを仕分けるのも便利である。

#### ⑥「統計調査結果公表（更新）お知らせサービス」の開始

- アラートサービスは結構手間が大変である。システム化も大変なので、いっそブログ化したらどうか。ブログ化してRSSの設定をすれば、いわゆるプッシュ型に近い情報提供で、しかも手間も非常に簡単で、速報性もある。今まで400万くらいブログサイトがあるが、まだ中央官庁ではほとんどやっていないので話題性もあり広報的な価値もある。そのブログからHTMLファイルに誘導するというスタイルが考えられれば、今、企業のマーケティングサービスとかでも大成功しているのだから、結構誘導できるのではないかと。専門家だけを対象にしたいのであればメルマガでもいいが、その対象をどうするのかによっては変わってくる。

等の意見が出された。

座長からは、このような新たな提供手法については、オンデマンド型の対応が必要で、大いに利用者の意向を組み入れながら、その都度改善していくことになるのではないかと。本日の意見を踏まえた対応を願いたいとの発言があり、事務局で、本日の意見を参考に検討を進めることとした。

#### (4) 農林水産統計における広報・公表の改善の具体化について

事務局が提示した農林水産統計の広報・公表の改善の具体化に対し、

- 電子メディアによる統計データの提供のところで、ユーザーの意見・問い合わせとして「統計のメールボックスを設置」とあるが、メールを送って返事が返ってこないという凄惨な反響を呼ぶこととなるので、専門的な体制をとることを前提にやっていただきたい。また、ここに来た質問をQ&Aとして蓄積することで非常にわかりやすいものとなる。
- 分析体制の充実としては、統計作成部局の中にある程度独自に加工・分析をしているグループがないと、使いにくさなどの声が直接的に反映してこないのではないかと。
- 現状の農林水産業について広く国民に理解をしてもらえるような統計データをどう作っていくのかということを行うためには、研究機関等との協力体制のほかに、例えば自分たちで統計本を出している人とか、農業団体などの各種団体とか、報道機関等の統計利用者に対して、ヒアリングを定期的に行うなどにより広く意見を聞くことが重要である。

等の意見が出された。

座長からは、本日の意見を改善の具体化あるいは指摘の中に盛り込むということで対応願いたいとの発言があり、事務局からは、資料3を肉付けした形で「取りまとめ(案)」を次回示し議論をしていくこととした。